

マイペース

第20期生 松崎 葵

私は幼い頃から、マイペースだと言われてきた。そしてそれは、大学生になった今も変わっていないように思う。ご飯を食べるには時間がかかるし、身支度をするにも1時間は必要だ。日常生活はマイペースそのものである。しかし、それは何かに挑戦したり、継続したりする時にも、異なるベクトルで発揮される。自分が挑戦したいと思ったことは、周囲の意見やペースに吞まれることなく挑戦し、継続してきた。これまでの私の人生を振り返ってみれば、このマイペースさが、私に多くの経験を積ませてくれたのだと思う。

私が小野ゼミの一員になることができたのも、このマイペースさが故だったように思う。2年の冬、入ゼミ説明会に足を運んだ時、キラキラとした先輩方の姿に惹かれ、この先輩方の下で勉強したいと強く思ったのを鮮明に覚えている。「エグゼミで大変だ。」という言葉はどこからか聞こえてはいたし、心配もされたけれど、それは私にとって全く問題ではなく、むしろ、「この先輩方の下ならば、私は乗り越えられるだろうな。」という謎の自信に溢れていた。

小野ゼミに入ってから2年間、辛いことがなかったと言えれば嘘である。3年の夏は三田論の仮説決めや密ゼミによってパソコンと一心同体となり、冬の三田祭直前はパソコンの前で意識が飛びかけたこともあった。けれど、その時々楽しいことがあって、今振り返れば、常に楽しみながら駆け抜けた日々であった。こうして1つのことに熱中し、楽しんで取り組むという経験を社会人となる前に積めたことは、間違いなく人生の糧となった。そして、何よりもこの経験を尊敬する方々と共に積むことができた時間がかげがえのない宝物だ。出会った頃は、性格もバラバラで、少し不安になったけれど、いつの間にかお互いをよく理解し、支え合ってきた同期生。頭のキレはもちろん、その優しさに何度も救われてきた。そして、どんな時も勇敢な21期生。優しく格好良く、その背中を追わせて下さった大好きな先輩方。2年間、指導時はもちろん、時には私生活のことまでも、ご助力くださった温かさに溢れる小野先生。小野ゼミに入ってからのお会いには感謝しかないし、私もその尊敬する背中に追いつけるような人間になりたいと思う。

マイペースであることは良いことばかりではない。他人に迷惑をかけてはいけないうし、機敏にならなければ手遅れになってしまう局面もある。しかし、何かに新しく挑戦したいと思った時、周囲の意見やペースに吞まれたり、自分の偏見で諦めたりするのではなく、自分の思いに素直になって挑戦し、自分のペースで継続することができるマイペースさは、大切にしたい。そして、小野ゼミで積むことができた豊かな経験、素敵な出会いを、これからの人生においても得ることができたら嬉しい。